

(公財)国連大学協力会 2014 年度事業計画

FY2014 Operational Plan The Japan Foundation for United Nations University

【基本方針】【Basic Guidelines】

国連大学は、1975 年の創設以来、長い間、学者の国際的共同体として、国連及び国際機関に対するシンクタンクとしての機能を果たしてきたが、第 64 回国連総会（2009 年 12 月）で国連大学憲章が改正され、修士及び博士の学位授与機能が国連大学憲章に明記され、名実ともに高等教育研究機関としての発展を図ることとなった。

そして、国連大学憲章改正の翌年に、東京本部にあるサステナビリティと平和研究所（UNU-ISP）を基盤として、大学院「サステナビリティと平和研究科」が創設され、同大学院は 2010 年 9 月に修士課程を設置し、2012 年 9 月に博士課程を設置した。

このような中、国連大学は、2013 年 3 月に、第 6 代学長としてデイビッド・マローン氏を迎えた。マローン新学長は、発足したばかりの大学院について、より高度化した教育をめざすとともに、国際的なシンクタンクの機能を強化することを方針に掲げ、国連大学が国連及び国際社会が直面するグローバル・イシューの解決に貢献するような教育・研究の取り組みを重視する計画を打ち出した。

そして、横浜にある「高等研究所（UNU-IAS）」と東京にある UNU-ISP について、2014 年 1 月に統合させ、日本における国連大学の活動をより焦点化する方向を打ち出した。従って、2014 年度における国連大学の日本国を舞台にした活動は、新しく生まれ変わる UNU-ISP を中核とした活動が期待される。

東京にあるサステナビリティと平和研究所は、サステナビリティ、気候変動、開発、平和構築、人権といった世界が直面している喫緊の地球規模課題に対して、自然科学、社会科学、人文科学を融合させた学際的なアプローチによって、幅広い視野からの解決を目指している。同研究所に設置された大学院「サステナビリティと平和研究科」は、そのような問題解決能力をもって取り組む人材の育成を目指している。同研究科を修了した学生は、国連機関その他の国際機関、政府関係機関、国際 NGO 等において、地球規模課題の解決に大きく貢献することが期待されることから、本法人は、同研究科の創設の時より、わが国の経済界と協力して同大学院の学生を支援するための奨学金制度をスタートさせた。

サステナビリティと平和研究科修士課程の 2010 年度の入学生は 5 名であったが、2012 年 7 月に初めての修士号取得者 3 名を輩出し、2013 年 7 月に 11 名の修士号取得者を卒業させた。同修了生たちは国際機関の研究プロジェクトへ参加するなど、同大学院の人材育成目標にかなった活動をし始めている。同大学院の入学応募状況も定着し 2012 年には 915 名の応募があり、16 名を入学させ、2013 年には 538 名の応募者があり 11 名を入学させた。2012 年の博士課程には 35 名の応募があり 3 名を入学させ、2013 年には 83 名の応募があり 2 名を入学させた。

そこで、本法人の 2014 年度の事業活動は、新学長の大学運営方針を尊重し、協力して、端緒についた国連大学の大学院教育に対する我が国国民の関心を一層高め、同大学院学生への奨学金支援が当初の計画どおり実現するよう体制を整備し、さらに本法人の公益事業の活性化を図ることを基本方針とする。

Since its establishment in 1975, the United Nations University (UNU) had been playing the role of a think tank as an international community of scholars for the United Nations (UN) and other international organizations. At the 64th United Nations Assembly (December 2009), the United Nations University Charter was amended to enable it to grant and confer master's and doctoral degrees. Since then, it has been developing as a higher education research institution in both name and reality.

In 2010, the UNU-ISP postgraduate programmes were established at the Institute for Sustainability and Peace (UNU-ISP) headquartered in Tokyo. The programme established the Master's Degree Programme in September 2010 and Doctoral Degree Programme in September 2012.

In March 2013, Dr. David Malone took up the position of the 6th Rector of UNU. For the newly established postgraduate degree programmes, Dr. Malone held up the policy to aim at more advanced education and strengthen its function as a think tank, and he developed a plan that focused on education and research that contributes to solving global issues that the UN and international society are faced with.

Furthermore, Dr. Malone announced the plan of consolidating the "UNU Institute for Advanced Studies (UNU-IAS)" in Yokohama and UNU-ISP in Tokyo in January 2014 and streamline activities of the UNU. Thus, it is expected that the re-born UNU-ISP will be the center of the activities of the UNU in Japan in 2014.

The UNU-ISP in Tokyo aims to solve pressing global issues that the world is facing such as sustainability, climate change, development, peace building and human rights based on broad perspectives by interdisciplinary approaches that integrate natural science, social science and human rights. The postgraduate programmes in the UNU-ISP aim to develop people who will work on those issues with problem solving capacities. The students who completed the graduate programme are expected to contribute to solving of the global issues at the UN institutions, other international organizations, government institutions, and international NGOs. Since the time when the postgraduate programme was established, the Japan Foundation for UNU has been providing scholarships to support students in collaboration with the business community of Japan.

The students who entered into the UNU-ISP Master's degree programme in the academic year 2010 were five. In July 2012, first 3 students graduated from the programme with Master's degree, and in July 2013, 11 students graduated from the programme with Master's degree. The graduates are already beginning to take actions that match with the programme of capacity development goals, such as participating in research projects of international organizations.

The programme now receives constant applications. In 2012, 915 people applied, and 16 were admitted. In 2013, 538 applied, and 11 were admitted. For the doctorate programme, 35 applied and 3 were admitted in 2012, and 83 applied and 2 were admitted in 2013.

Therefore, the basic principles of the activities of the Japan Foundation for UNU in 2014 will be to work with the UNU to enhance interests among the Japanese public towards their postgraduate education, while respecting for the management principle of the new Rector of the University. The Foundation will also try to establish a system to materialize the scholarship programme to support the postgraduate students of the UNU as planned and to activate non-profit activities of the Foundation.

【事業計画】【Operational Plan】

I. 寄付金募集活動 [Fund-raising Activities]

国連大学の活動は、国連大学憲章に則り、人類の生存及び発展、福祉にかかる緊急に解決を要する国際的・地球的な課題（以下、「地球規模課題」と言う。）の解決のための教育・研究及び知識普及を中心としている。国連大学は日本に本部組織を置く唯一の国連機関であり、国際貢献・国際親善の観点から日本国民にもなじみの深い国際機関である。しかしながら、国連大学の運営予算は、通常为国連予算（各国の分担金による）からの配分は全く受けず、各国政府・民間からの拠出金（任意の提供金）によって運営されている。これらのことに鑑み、本法人は、従前より、日本国民の国連大学に対する幅広い支援を得るための寄付金募集活動を実施してきた。

1. 国連大学大学院「サステナビリティと平和研究科」奨学支援募金活動（継続事業） [Supportive Fundraising Activities for the UNU-ISP Postgraduate Programme] (On-going Mission)

国連大学が、本部（東京）施設内にあるサステナビリティと平和研究所に2010年に創設した大学院「サステナビリティと平和研究科」は、同年9月から新生を入学させた。この大学院は、現在、国際社会が直面している地球規模課題について、「地球変動とサステナビリティ」、「開発と国際協力」、「国際平和と安全保障」という観点から、高度かつ専門的な立場で取り組む有為の人材の養成を目的としている。また、この大学院は、アフリカのガーナにある天然資源研究所(UNU-INRA)と連携してアフリカにおける教育にも力を注いでいる。さらに、2013年より日本の有力大学である東京大学と大学院共同プログラムを開始するなど、日本国内の大学院との協力関係を強めている。本法人は、この大学院創設の意義に鑑み、この大学院に世界各国から集う学生、特に開発途上国の学生の修学上の支援を行うため、2010年秋に、新たな賛助会員システム「国連大学大学院サステナビリティと平和研究科」奨学助成賛助会員（「jfScholarship for UNU 賛助会員」）をスタートさせた。

この大学院は、修士（MSc. サステナビリティ・開発・平和学）及び博士（Ph.D. サステナビリティ学）で、2012年度には博士課程が開設された。入学生の数も増加し、かつ学年進行とともに奨学金を必要とする学生の需要も高まることが予想される。学生への奨学助成は、安定的、継続的に助成することが肝要であるので、賛助会員システムによって継続的な支援を行う。賛助会員の募集にあたっては、産業界との連携を強化し、企業団体等に広く協力を求めるとともに、一般国民からも幅広く「jfScholarship for UNU 賛助会員」への参加を呼びかける。

2. 一般寄付金（継続事業） [General Donation] (On-going Mission)

従来より継続的に実施している寄付金募集活動であるが、国連大学の実施する教育研究プロジェクトへの助成及び本法人の行う広報・普及活動等への支援を目的に、任意の時期に任意の寄付金を広く国民から受け入れる募金活動である。なお、この一般寄付金においては、国連大学の大学院サステナビリティと平和研究科及び高等研究所の特定プロジェクトほか、

寄付者の意思によって任意の事項を指定して寄付することができるものである。

3. 一般賛助会費（継続事業） [Dues from Supporting Members] (On-going Mission)

この一般賛助会員制度による寄付金募集は、従来から実施しているものであるが、本法人の行う活動及び国連大学の教育研究活動全般を継続的・安定的に支援するために、極めて重要であるのでこの募金活動は積極的に行う。

II. 国連大学の活動及び地球規模課題解決に係る広報・キャンペーン

[Publicity Work and Campaign related to UNU's Activities and Solution of Global Issues]

国民の各界各層に、緊急の地球規模課題を解決することが人類の平和と発展に不可欠であることを周知させるとともに、その課題解決に取り組む国連大学及び本法人の活動に対し、幅広く理解と関心を高め、人々や企業から支持が得られるよう、広報・キャンペーンを行う。特に、国連大学に本格的な大学院が設置されたことから、高等教育機関として本格的な活動をスタートさせた国連大学大学院の大学院生たちの動向を伝え、同大学院の意義や国際貢献への期待について、強力に広報活動を展開する。

1. 広報資料の作成（継続事業） [Making public relations materials] (On-going Mission)

(1) ニュースレターの発行（Issuing newsletters）

国連大学の研究者や短期コース受講生へのインタビューを掲載するなど、国連大学を国民に身近に感じてもらえるよう編集内容に工夫を凝らしてきたが、大学院の設置に伴ないカリキュラム内容や大学院生の生活ぶりなど、よりいっそう具体的に教育活動の様子を国民に伝えることとしている。

(2) 各種パンフレットの発行、等（Various kinds of pamphlets, etc.）

本法人の活動概要や国連大学の活動概要を分かりやすく解説したパンフレット等の充実を図る。

2. インターネットによるキャンペーン（継続事業）

[Campaigns through internet, etc.] (On-going Mission)

(1) ウェブサイトの拡充（Enrichment of our Website）

インターネットによる広報展開をさらに拡充し、イベント情報の積極的な告知やニュースレターの記事転載、ツイッターの活用、UNUウェブサイトとの連携を図りながら、国連大学とその活動内容をより広範に紹介することを目指す。

(2) メールマガジンの配信（Delivery of the e-magazine, etc.）

賛助会員や本法人へのコンタクトを希望する人々に、イベント案内を中心に機動的な広報を展開する。

3. レクチャーシリーズの発刊（継続事業）

[Publication of jfUNU Lecture Series] (On-going Mission)

本法人では、国連大学が取り組む地球規模課題について、一般国民にわかりやすく紹介するため、国連大学と本法人が共催で実施したシンポジウムやセミナーの結果を「レクチャーシリーズ」として発刊してきた。今までに、「国際社会における法の支配と市民生活」、「平和と開発のための教育」、「資源としての生物多様性」、「グローバル化した保健と医療」、「サステナビリティと平和」、「持続可能性とリスクマネジメント」を刊行し、2013年には、「震災復興と生態適応」、「人間の安全保障」を刊行した。2014年度は、「環境と平和」の刊行を予定している。

4. ロータリークラブ等での広報活動（継続事業）

[Public Relations Activities at the Rotary Clubs, etc.] (On-going Mission)

関係機関等を通じ、地域ロータリークラブ等での講演・卓話機会の獲得に努め、国連大学の活動を幅広く広報する。

III. 地球規模課題解決に関する知識普及のための講演会・セミナー・シンポジウム等

[Lectures, Seminars, and Symposiums to Disseminate Knowledge regarding Solutions of the Global Issues]

本法人では、国連大学への国民の支持を高め、国民各界各層に国連大学の取り組む地球規模課題についての知識の普及と理解の増進を図るため、国連大学と共催で、人類の生存や福祉、発展に関わる地球規模課題解決のための講演会やシンポジウム・セミナーなどを開催してきた。2014年度においても、これを継続し、特に若年層の人々の育成に資するため、講演会やセミナー・シンポジウムを行う。

1. 講演会等（継続事業） [Lectures, etc.] (On-going Mission)

説話者のレクチャーを中心とした知識の普及を図るもので、主として、幅広い国民層を対象に、緊急の地球課題の特定課題について学識者または国連の現場での経験者に基づく講演会等を実施する。開催地は、主として東京で行う。

2. セミナー・シンポジウム（継続事業） [Seminars and Symposiums] (On-going Mission)

講演者相互の意見交換によるパネルディスカッションや参加者との討議が組み込まれたシンポジウム等の形式により、緊急の地球的課題について掘り下げた議論を行う。主として、地球的課題の取り組みに実績を持つ地方の大学等との共催により、当該問題の重要性について、広く全国各地の若年層の研修機会を図る。

IV. 国連大学への助成活動 [Support Activities for United Nations University]

国連大学の主たる活動は、緊急の地球的課題解決を図ることを目的として、研究所を主体として進める研究活動と大学院または短期講座における教育活動である。この事業では、国連大学の研究活動及び教育活動の推進が、人類の発展と平和に重要な貢献を果たす観点から、

国連大学の研究活動及び教育活動並びに教育研究環境整備に対して助成を行う。国連大学への助成に当たっては、国連大学が真に必要とする分野の活動について、事前に国連大学関係者との連絡調整のもとに助成対象事業などを検討するとともに、具体的助成事業の選定・助成額配分などについては、本法人の「助成諮問委員会」の十分な審議を経て行うこととする。

1. 研究活動への助成 [Support for UNU Research Activities]

国連大学の研究活動は、緊急の地球的課題解決のために、世界的なネットワークによって実施され、その成果は国連機関や世界の関係者等に対し、提言や解決方法を提示して還元される。この事業は、このような国連大学の研究活動の重要性に鑑み、それらの研究活動への助成を行うものである。日本国内に設置されている研究所の行う研究活動を重視して助成を行うこととする。

(1) 「アジアにおける残留性有機汚染物質のモニタリングと管理」プロジェクト (継続事業)

“Monitoring and Management of Persistent Organic Pollutants (POPs) in Asia” (Ongoing Programme)

この事業は、2011年度まで「アジア水圏における環境監視と管理プログラム」として実施されてきたプログラムを、2012年度より発展的に継続した事業である。

このプログラムでは、開発途上国における河川汚染を防止する目的で、分析装置を使って実地トレーニングとモニタリング活動を行い、化学分析能力の向上をはかることを目的としている。主に有機フッ素化合物 (PFCs) の環境モニタリングを行なう予定である。PFCs は、人類および生態系を脅かす毒性を有する合成化合物である。日本、中国、韓国、ベトナム、フィリピン、マレーシア、タイ、シンガポール、インドネシア、インド、パキスタンなどの沿岸水圏 (海水、河川水、湖沼) の汚染を防止するため、この研究プロジェクトへの参加研究機関の PFCs 分析能力の強化を目指す。

(2) その他、必要な研究活動に対する助成

[Others-Support for Necessary Research Activities]

その他、必要な研究活動に対し、必要に応じて助成する。

2. 教育活動への助成 [Support for UNU Educational Activities]

国連大学の教育活動は、緊急で世界的・地球規模課題の解決に従事するための高度かつ専門的な若き人材の育成を目的とする大学院レベルの教育である。学生たちは、これら国連大学の行う教育課程を修了後、それぞれの専門を生かして、世界の緊急課題の現場や学術機関において即戦力として貢献することが期待される。本法人では、このことの重要性に鑑み、大学院サステナビリティと平和研究科の学生の修学を支援するための助成と、従来より国連大学本部において実施されている短期研修事業への助成を行う。

(1) 大学院「サステナビリティと平和研究科」の学生奨学経費助成 (継続事業) [Scholarship Grants for UNU-ISP Postgraduate Programme] (On-going Mission)

この助成事業は、サステナビリティと平和研究科の大学院生が、長い場合には5カ年にわたり日本に滞在しながら、学位論文作成のための勉学と研究活動に専念できるような生活環境を提供することを目的としている。助成の内容は、学生の生活費を中心とした補助である。特に開発途上国からの学生への支援を重視する。

(2) UNU-ISPの実施する短期研修への助成
[Support for Short-term Seminar by UNU-ISP]

国連大学グローバル・セミナー（継続事業）

[UNU Global Seminars] (On-going Mission)

国連大学が行っている研修事業のうちもっとも歴史が長く、多くの修了生が国連や国際機関、教育機関に従事している実績を持つ事業である。短期研修（4日間）であるが、毎年、幅広い観点から、国際平和と環境・開発の問題を取り上げてきた。また、同セミナーには、日本の若者も多く参加することから、本法人としては、従前より強力に支援してきた。2014年度は同セミナー湘南セッションが発足30周年にあたることから助成額を拡大する。

(3) その他の教育事業への助成 [Support to the Other Educational Functions]
その他、国連大学との協議により必要とされる教育事業に助成する。

3. 国連大学の教育研究環境整備のための助成
[Support for Maintenance of UNU Educational and Research Environment]

国連大学の学生や研究者等が、安心して学習・研究に専念できる環境を維持することが、人類の生存や福祉、発展に関する緊急で地球的な課題の解決を推進する上で重要であることに鑑み、国連大学の教育・研究活動上の環境整備に対して助成する。

- (1) 国連大学本部における教育研究のための施設整備費（継続事業）
Maintenance of UNU Educational and Research Facilities (On-Going)
- (2) 国連大学図書館の蔵書購入費（継続事業）
Purchasing Books for UNU Library (On-Going)

4. その他の国連大学事業への助成[Support to the Other UNU Functions]

その他、国連大学との協議により新たに必要とされる事業への助成を行う。

V. 地球課題解決のための研究及び社会の取り組みについての調査・研究
[Inquiry/Study related to Researches and Social Efforts to Settle the Global Issues]

緊急で地球的な課題の解決に対して、広く国民の理解と認識を得るためには、今日における地球規模課題の解決に係る社会の取り組み、大学等における教育・研究の動向を常に把握していることが肝要であるが、そのため、地球課題解決のための研究や社会の取り組みの実情について、必要に応じて調査・資料収集等を行う。調査を実施する場合は、具体的テーマ・

調査方法等は、専門家等を交えたプロジェクトチームによって検討する。

VI. 国際相互理解の促進等に関する事業

[Missions related to Promotion of International and Mutual Understanding]

緊急で地球規模課題の解決には、それを醸成する国際相互理解の促進がなされていることが不可欠である。本法人が国連大学の諸活動を支援・協力するに当たっては、国連大学本部が日本国に設置されていることの強みを活かし、国連大学の諸活動に参加する世界各国の人々に、日本理解を含む国際相互理解の促進に資する機会を提供する事業を行う。また、必要に応じ、人類の生存と福祉、発展に関わる緊急で地球的な課題解決のため、国内外における甚大な災害に際し、被災者支援及び災害復興支援を行う。

(1) 国際情報交流事業（継続事業） [Missions of Global Information Exchange] (On-going Mission)

国連大学の研修事業は30年の歴史を持ち、この間多様な研修活動を展開し、修了生たちは、国連機関・国際機関・国際NGO・大学での研究活動など、緊急で地球規模課題の解決を必要とする現場で活動している。これらの修了生たちは、国連大学での教育期間修了後も、それぞれが関わっている課題の情報交流の機会を欲している。本法人では、1999年度以来、これらの修了生たちに賛助会員等日本人学生や学識者との国際情報交流の機会を提供してきた。

2014年度は、これらの国連大学修了生に加え、短期集中講座や大学院学生等に在籍中の学生も加え、世界各国の学生たちと日本人学生や学識者との情報交流の機会を提供する。

(2) 日本文化体験事業（継続事業）

[Mission of Japanese Culture Experience] (On-going Mission)

国連大学本部において開催される各種研修会や新設の大学院には、世界各国から学生が参集する。これらの学生たちに、研修・教育のための在日期間中に日本文化や日本の社会についての理解を深め、国際相互理解の促進に資するための事業である。

- ① 歌舞伎鑑賞など日本文化に直接に接する機会を提供する。
- ② 日本の先端企業の見学など日本の経済産業活動に直接接する機会を提供する。

(3) 国内外の甚大な災害に際する災害復興支援（継続事業）

[Disaster Recovery Support to Disasters Inside/Outside of Japan] (On-Going)

この事業は2011年3月11日に発生した東日本大震災への震災復興支援をきっかけとして生まれた事業で、本法人が国連大学のネットワークと協力して、災害から自らの力で復興に取り組む人々や団体に対し、その取り組みを支援し、助成を行うために行うものである。今後も、人類の生存と発展にかかわる緊急課題解決の観点から、必要に応じて、国内外の甚大な災害に際する支援を行う。なお、助成対象の審査には本法人の助成諮問委員会があたることとし、審査に当たっては国連大学が実施する地球規模課題解決の研究教育活動との関連性を重視する。

VII. 本法人の管理運営活動 [Management and Operational Activities of jfUNU]

公益財団法人への移行に伴い、本法人の諸活動は、公益目的事業・法人管理運営事業・その他の事業に明確に区分して事業展開を行い、事業管理を行うことが不可欠となった。そのため、法人の管理運営体制について、評議員会・理事会・常任理事会・公益事業関係委員会・執行理事の権限などの役割分担を明確にし、公益法人としての社会的責任を果たしていく。その際、次の点について、前年度に引き続き特に意を用いる。

- ① 公益法人における、区分会計処理の徹底
- ② 公益法人における、公益目的保有財産管理の適正化
- ③ 基本財産及び特定基金等の資産運営の適正化

以上